

福島県林業研究センターだより

あさかの森から

No.29 2008年2月

福島県林業研究センター
Fukushima Forestry Research Centre

メニュー

◆巻頭言

「あさかの森」をもっと皆さんへ

◆試験研究成果の発表

平成19年度第3回林業研究センター

地域研究セミナー発表要旨

平成19年度第1回林業研究センター

地域研究セミナー実施状況

平成19年度第2回林業研究センター

地域研究セミナー実施状況

◆センターからのお知らせ

平成18年度の研究報告、業務報告について

巻頭言

「あさかの森」をもっと皆さんへ -林業研究センターってどんなところ?-

立春とは名ばかりの寒さが続いています、林業研究センターのある「あさかの森」にももうすぐ春がきます。

昨年3月、前の職場（農林事務所農業振興部）から転勤する際、「林業研究センターて何処にあるの？どんな研究をしているの？」と聞かれ「郡山のカルチャーパークの南側の森の中」と応えていましたが、早いもので一年が過ぎようとしています。

1969年郡山市安積町に林業試験場が発足、1970年には第21回全国植樹祭お手播きが行われ、昭和天皇皇后両陛下がお手播きになられたスギ、マツが本館前ですくすくと生長しています。この間、時代の要請に応え数々研究に取り組んできましたが、当センターも来年度で40年を迎えることとなりました。

現在の研究は、森林環境部門でのマツノザイセンチュウに強いマツの苗木や無花粉スギの苗木の開発、ナラ枯れの推移と防除技術の開発、老齢サクラのさし木技術の確立など、また、林産資源部門では、野生きのこの品種選抜や栽培技術の確立、食品機能性の高いナメコ品種の育種、木材試験棟・加工棟を利用した木材の強度試験や製品開発など広く森林・林業木材産業に係わる試験研究を行っており、これら研究の成果は、県民の皆様に広くご活用頂きたいと考えています。



お手播きのスギ、マツ



また、当センターでは林業関係者のみならず広く一般県民の方にも、市街地に隣接した広大な「あさかの森」にふれて頂きたい、「ミニ参観デー」「公開デー」等を積極的に実施して、広く県民に親しまれるセンターをめざして、さらなる努力をして参ります。

話は変わりますが、この写真（鬼の雪だるま？）、2月の節分の翌日、当センターの駐車場にだれか子供が作ったのでしょうか？飾ってありました。

（稲本太一郎）

試験研究成果の発表

旧来、試験研究の成果は、当該年度に終了する試験研究課題について年に一度、一般県民の皆様にも公開する発表会形式で実施しておりました。

しかしながら、終了課題の成果発表であることから、必ずしも県民のニーズに合ったものとなっていなかった面も見られたことから、本年度、県民各層からのご意見、ご要望を現在実施している試験研究に反映させるべく、県内3地方（会津、中通り、浜通り）でセミナー形式で全ての研究課題について発表会を実施してきました。

今回が本年度最後のセミナーとなりますので、ぜひご参加のうえ皆様のご意見、ご要望をお聞かせください。

なお、日時、場所等は次のとおりです。

○日時 平成20年2月27日（水）10:00～13:50

○場所 林業研究センター研修本館（郡山市安積町成田字西島坂1）

事前のお申し込みがない方も当日参加OK。

平成19年度第3回林業研究センター地域研究セミナー発表要旨

①海岸マツ林はどのくらい塩分を捕まえているのか？

海岸のマツ林はほとんどが潮害防備保安林に指定されています。海風によって飛沫がまき上げられ風に乗って内陸へと流れ込みます。飛沫に含まれる空中の塩分は海岸マツ林の枝葉や幹に付着し次第に減少していきます。マツ林によって減少した空中の塩分は、そのマツ林のうしろ側の内陸部（後背農地など）ではどれほどの量になっているのでしょうか。海岸マツ林の有る場所と無い場所では差があるのでしょうか。また、海に面した側のマツ林表面のマツ葉には、どのくらいの塩分量が付着するのでしょうか。これら海岸マツ林と空中塩分量の関係を測定データをもとに報告します。

森林環境部
主任専門研究員兼部長
斎藤 寛

②カシノナガキクイムシの防除とナラ枯れの推移は

ナラ枯れは、ナラ菌（ナラの道管を閉塞させ、通水機能を停止させる）を伝搬する体長4.5mmほどのカシノナガキクイムシの集中加害によって引き起こされます。本被害は、2000年秋に新潟県と県境を接する会津地方の西会津町で初めて確認され、以降急速に蔓延して2004年秋の時点では、会津地方のみならず中通りの郡山市を含む旧18市町村（新12市町村）に及びました。ここでは、カシノナガキクイムシの新たな駆除法、ナラ枯れ木に対する生息状況およびナラ枯れの動態等について報告します。

森林環境部
専門研究員
在原 登志男

③マツノザイセンチュウに強いマツ苗木を供給するには！

マツノザイセンチュウに対して抵抗性がある苗を市場に供給することは福島県にとって喫緊の課題です。特に、抵抗性クロマツに対する要望は全国的にも高いことから、品質の良い抵抗性苗を生産することは福島県のみならず近隣県の海岸林を守ることにもつながると考えられます。法律上、抵抗性苗はスギとは異なり、さし木やつぎ木のようなクローンではなく、採種園産の種子を用いて生産することになっています。そのため、関東以西では品質のよい実生苗を生産するために苗の抵抗性を上げる工夫を行っています。これらのことを踏まえ、福島県および全国的な抵抗性苗の生産体制の現状と今後のあり方についてお話ししたいと思います。

森林環境部
主任研究員
小澤 創

④無花粉スギの苗木を供給するには！

花粉症の主な原因となっているスギ造林地からの花粉飛散を抑制することは、林業に求められている大きな課題です。福島県においては平成13年から研究を開始し、既に県内造林地から複数の無花粉スギ個体を発見しています。現在は、これらの無花粉スギの遺伝様式を解明するとともに、成長や材質に優れたスギと交配することで、林業上、実用的な無花粉スギ品種の開発に取り組んでいるところです。

このセミナーでは、造林用苗木として無花粉スギ品種を供給する際の考え方とその行程について、現在の進捗状況と共に報告します。

森林環境部
主任研究員
壽田 智久

⑤強度な間伐によるスギ人工林のゆくえ

木材価格の低迷や林業従事者の減少等により、手入れされない人工林や強度な伐採を行った林分、さらに皆伐後放置された状態の人工林が見受けられます。このままの状態では木材生産機能や水土保持機能は保たれるのでしょうか。

ここでは、概ね50年生以上で0.5ha以上のスギ人工林を対象に、強度な間伐(残存本数を150～500本/ha)を行い、伐採後の林況、植生の回復、埋土されている広葉樹種子等の調査を行い、再造林を必要としない混交林化への誘導が可能かについて報告をします。

森林環境部
主任研究員
今井 辰雄

⑥間伐材及び木炭利用水路による水田排水の水質浄化

農業排水の水質浄化に間伐材や木炭を活用し、これらの利用拡大につなげることを目的として、水田内に県内産スギ間伐材を用いて作製した排水路を設置し、県内産の木炭を敷設して、その水質浄化効果を検討しました。調査は水田から排水のある代かき後の5月、中干し時の7月、落水時の9月に行いました。水質の調査分析は、農業総合センターが担当して実施しました。

その結果、浮遊物質、全有機炭素、全窒素、硝酸態窒素及び農薬成分(調査は1種類)といった排水の環境負荷物質をある程度軽減させることが認められたので紹介します。

森林環境部
専門研究員
松崎 明

⑦老齢サクラのさし木を成功させるためには！

県内には永年地域住民に親しまれ地域の宝として大切に保護されてきたサクラが数多くあります。これらの多くは老齢であることから樹勢が衰退しているものもあり、貴重な遺伝資源が消滅してしまうことが危惧されます。早期にクローンを作って対処することが望ましいのですが、老齢サクラのクローンをさし木で作ることは簡単ではありません。しかし、老齢サクラにある工夫を施して得た穂木を用いてさし木すると発根することが分かりました。この方法は場合によっては長期間を要する欠点がありますが、つぎ木と異なり完全なクローンが作れるという大きな利点があります。大がかりな施設がなくても誰でもできる方法ですので参考にして下さい。

森林環境部
専門研究員
渡邊 次郎

平成19年度第1回林業研究センター地域研究セミナー実施状況

第1回の地域研究セミナーは、会津地方において「きのこ等の特
用林産物」に関する研究をメインに、次の内容で実施しました。

- 開催日 平成19年12月6日(木)
- 開催場所 福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター
- 発表内容

- ①連作地でキリは育つの？
(林産資源部 主任研究員 古川成治)
- ②原木によるきのこ栽培 -ムキタケ・ナメコ事例-
(林産資源部 主任研究員 内山寛)
- ③ムラサキシメジは、落ち葉を食べるの？
(林産資源部 主任研究員 古川成治)
- ④ツチグリの人工栽培は可能か？
(林産資源部 部長 青砥裕輝)
- ⑤ナメコ有効成分を増強する栽培方法
(林産資源部 副主任研究員 小沼研二)
- ⑥県産きのこ山菜の新たな魅力を探す！
(林産資源部 主任研究員 武井利之)



きのこ生産者等、多数の参加者で会場は満員状態。

平成19年度第2回林業研究センター地域研究セミナー実施状況

第2回の地域研究セミナーは、浜通りにおいて「木材の加工・利
用技術」に関する研究をメインに、次の内容で実施しました。

- 開催日 平成20年1月20日(月)
- 開催場所 報徳苑(いわき市)
- 発表内容

- ①県産スギ材を横架材に！ -スパン表の活用-
(林産資源部 副主任研究員 山田隆茂)
- ②住宅構造材の接合強さ
(林産資源部 主任研究員 渡部秀行)
- ③スギ材を低コストで乾燥させるには
(林産資源部 主任研究員 高信則男)
- ④スギ材の表面をつよくする！！ -熱ロール加工の特徴と応用-
(林産資源部 副主任研究員 遠藤啓二郎)



建築設計関係者や木材加工業者の皆さんから、多くのご質問、ご意見を頂戴致しました。

センターからのお知らせ

平成18年度の研究報告、業務報告について

当センターの年間活動状況を公表する「林業研究センター業務報告」及びに当該年度に研究期間が終了した試験研究課題の成果を公表する「福島県林業研究センター研究報告」については、平成14年度版からCD-ROM版により作成・配布をおこなっております。

しかしながら、「保管や利活用の面で不便」とのご意見や、利用者毎の紙出力による環境負荷の増大等の問題点もご指摘を頂いていたところであり、平成18年度版につきましては、再度A4版冊子として配布することとし、現在印刷製本中です。

配布までには今しばらく時間がかかりますが、平成18年度版の「業務報告」「研究報告」の内容につきましては、電子ジャーナル版として当センターホームページに掲載しておりますので、そちらを御覧ください。



福島県林業研究センター

〒963-0112 福島県郡山市安積町成田字西島坂1番地

TEL 024-945-2160 FAX 024-945-2147

URL <http://www.pref.fukushima.jp/ringyoukenkyuu/index.html>

E-mail forestry.rc@pref.fukushima.jp